

教育通信

23年度 第6号
通巻1792号

発行所:
高知県教職員組合
〒780-0850
高知市丸ノ内2-1-10
TEL088-822-4135
FAX088-823-2355

全教職員 配布 読んでね

県教組HPは

↓こちらから



ダンス学習会、熱心な学習に！



8月5日(土)に、高知市立江陽小学校の体育館で第33回夏季ダンス学習会を開催しました。新型コロナウイルス感染症が五類感染症に位置づけられたこともあり、今年度は久しぶりに一日開催で行いました。参加者は22名(講師を含む)で、例年より少ない人数での開催となりました。『ミックスナッツ』(Official髭男R-sm)や『ダンスホール』(Mrs. GREEN APPLE)

『C』などの人気の曲に合わせた躍動感あふれるダンスや、よさこい、花笠音頭といった民舞が披露されました。みんな汗をたくさんかきながら、大変熱心に取り組んでいました。ダンス学習会はこれまでつないできた大切な活動の一つではあります。コロナウイルス感染症、運動会を春開催とする学校の増加、動画配信の普及などから参加人数の減少が課題となつて

「戦争を語りつづつどい」に130名!

太平洋戦争終戦の日である8月15日、高知市の人権啓発センターで「戦争を語りつづつどい」が行われました。退職教職員団体、県教組、高教組、平和団体などで組織する実行委員会主催で、130人が参加しました。コロナ禍により、昨年度までの3年間は屋内での集会が行わず、街頭での宣伝活動を行ってきました。今年度は、4年ぶり

の屋内集会となりました。戦後78年が過ぎ、世代の人たちが少なくなつてきています。そこで、今年度は、「戦争を「知らない」私たちが伝える戦争」をテーマに掲げ、パネラーに掲げ、パネルディスカッションが行われました。退婦教「歌う会」の皆さんによる平和の歌の合唱で幕をあけ、まず退婦教の方から、高知城ホール1階にあるレリーフ「樹下の子どもたち」に込められた「教え子を再び戦場に送らない」思いの説明と、教え子を戦場に送った教師の悔恨を詠んだ短歌の紹介がありました。

次に、ふとしたことから見つけた亡き父の少年時代の写真から「満蒙開拓青少年義勇軍」を調べた

方の報告がありました。ここでも、時の政府が青少年の派遣に教師を駆りたてた様子があきらかにされました。最後に、高校と小中学校の2人の現役教員からの報告がありました。工夫しながら平和教育を進めていること

や、子どもたちは、過去と現在の事実と、きちんと向き合うことで、命の大切さと平和の尊さを学んでいく力をもっていることが語られました。パネラーの発言後、会場からの発言も活発にあり、日本が「新たな戦前」への道を歩もうとしている今、戦争の加害と被害、協力と抵抗の歴史を学び、伝えていくことの大切さを改めて考えるつどいと

(石川真人)

障害児教育カフェ

日時:2023年9月29日(金)

19時から開始

場所:高知城ホール3階会議室

報告:自閉・情緒学級での取り組み

(小学校)・参加者交流

オンラインでの参加希望方は右のQRコードで申し込んでください。



高知県教職員組合障害児教育部主催

お城下

8月28日、中央教育審議会が、教員の働き方に関して緊急提言を文科省に提出。読めは「もうやっ

ているよ」という失望と「こんな小先では解消はムリ」という怒りが交錯▼結局、人は増やさない・今の政策はやり続ける・現場の工夫で何とかしろというメッセージ、いや脅しと受け取らざるを得ません▼使えるかなと思ふのは、多すぎる授業時数の削減に言及していること。年間200日×6時間とすれば1200時間。文科省・指導要領の時数を100時間以上も上回ります。前にもこの欄で指摘しましたが、5時間授業を週3回やってもOK▼行事の多い二学期、この視点で日々の学校を見直してみませんか。「運動会の練習で疲れているから5時間で打ち切り」「作品が出来たからご褒美で打ち切り」、子どもも教師も喜ぶと思うけど。そんな自由さこそ今の学校には必要!(和)

8/18~20 全国教研を東京で開催



2023年8月18日(金)から20日(日)まで三日間、今年度の「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい」(教育研究全国集会2023 in東京)が、(以下、23全国教研)が東京で行われました。全体の参加者は、のべ3500人。高知県教組・高教組からは、15名が参加しました。

教育のつどい2023アピール

憲法と子どもの権利条約がいきて輝く教育と社会を確立しよう

教育のつどい2023は、8月18日から3日間、東京都内で開催され、開会全体集会和5つの教育フォーラム、18の分科会に、オンライン参加を含めてのべ約3500人の保護者、市民、学生、教職員等の参加があり大きく成功しました。全国各地から参加されたみなさん、ご奮闘いただいた現地実行委員会のみなさん、開会全体集会场・北とびあをはじめ、教育フォーラム・分科会会場、特に明治学院高校のみなさんなど、すべての方々のご協力・ご尽力に心から感謝と敬意を表します。

子どもの意見を聴き、子どもの最善の利益を第一に、子どもの可能性を信じること

開会全体集會には会場とオンラインを合わせて1000人の参加がありました。立教大学名誉教授・浅井春夫さんの講演「子どもを大切にする教育実践と国のあり方を探求する～子どもへの無関心の政治に抗して、私ができること～」では、子どもを大切にする教育実践は子どもの事実・現実・真実に関心を持ち続けることであること、「あらたな戦前」となる可能性が大きい時代に政治的教養は子どもたちにも教職員自身にも必須であること、からだには「からだの権利」があり、からだへの危害に対しては抵抗権があることなどが話されました。歌や詩を織りませ、惹きつけられる講演となりました。

分科会では、子どもたちが学校や家庭での生活を丸ごとコロナ禍のもとで過ごさざるをえなかった中で、教職員や保護者、市民のみなさんが子どもたちに寄り添い、一人ひとりの声を聴き、子どもの実態から始める実践が報告されました。学校でコロナ禍前よりむしろ管理・統制が強められることがあるもともども、教職員は子どもたちがいきいきとゆたかな子ども時代を生きられるよう力を合わせていることがわかりました。

ICT・タブレットを活用する授業づくりの実践報告も増えています。一方的に押し付けられて使うだけでなく、課題や問題点を共有し、子どもたちのためにどのように使うことがよいか模索していることがわかります。

再編された課題別分科会では、ジェンダーや包括的性教育、LGBTQ+等に関する多彩なとりくみや、ウクライナ問題で子どもが学び意見表明する授業実践、登校拒否・不登校が取り上げられました。また学校統廃合に対抗する各地のとりくみが交流されるなど、課題の重さを痛感させられる現実をふまえた多様なレポートと議論が展開され、総合討論を通して今後に向けた大切な第一歩を踏み出すことができました。

子どもの成長と発達を信じ、一人ひとりに寄り添うていねいな実践が数多く報告され、「教育のつどい」が積み上げてきた日本の民主教育が脈々と流れていることがわかります。

集まり、語り合うことで、あらためて感じる「教育のつどい」の大切さ

いま、競争や管理で子どもをしぼる学校、異常な長時間過密労働で教職員を苦しめる学校など、このままでは子どもたちも教職員もこわれてしまうと感じることが少なくありません。学校や社会を変えるには大きな力が必要ですが、一人で頑張るのではなく、なかまを増やして、みんなで立ち上がることで、変化を起こすことができます。少人数学級の前進や給食無償化の広がり、そのことを示しています。

4年ぶりに完全対面で「教育のつどい」を行い、顔を合わせて語り合うことで温かさや新たな気づきを得ることができました。ここで得た学びや励まし、勇気、活力など、たくさんのお土産を持ち帰り、学校で、家庭で、地域で、ともにがんばっていきましょう。

いまこそ戦争ではなく平和を世界に

ロシアによるウクライナ侵攻から1年半、戦争は終結する見通しがたっていません。そうした情勢を使って、日本政府は大軍拡予算を押し通し、「戦争できる国づくり」に突き進もうとしています。しかし、子どもたちや若者が「戦争反対」の声を上げ行動する動きが各地に見られます。「あらたな戦前」にしないために、ともに立ち上がることもめられています。

いまこそ憲法と子どもの権利条約を守りいかすとりくみを、子どもの豊かな成長・発達を保障するさまざまな運動や願いと結び、職場や地域から声を上げさらに広げていきましょう。

2023年8月20日「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい 教育研究全国集会2023」実行委員会

初日は、開会全体集會。昨年は高知で全国教研を行いました。今年度は、4年ぶりの一堂に会しての集會でした。会場いっぱい参加者の姿を見ながら、また全国の知人・友人の顔を直接見ながら、やはり集まることの大切さを学びました。記念講演の講師は、浅井春夫さん(立教大学名誉教授、写真・右)。「子どもを大切に」を大切にする教育実践と国のあり方を探求する

「子どもを大切に」を大切にする教育実践と国のあり方を探求する

大切さを学びました。記念講演の講師は、浅井春夫さん(立教大学名誉教授、写真・右)。「子どもを大切に」を大切にする教育実践と国のあり方を探求する

「子どもを大切に」を大切にする教育実践と国のあり方を探求する

もに寄り添うことなどを
ご教授いただきまし
た。また、今の教育
の問題点を分析した
「基調提案」や、「現
地企画」・東京から
の実践報告なども、
今の学校を働きの場
所にしていくために
何をしたいかを考
へて、とても参考に
になりました。

その夜は、五つの
フォーラムに分かれ
ての学習。①「子ど
も時代をデザインす
る」②「どうする？
教育DX」③「多様
性を尊重する社会と

教育とは」④「戦争
ではなく平和の準備
を」子ども・若者
とつくる平和」⑤
「地域の学校を守る
共同の力」統廃合、
民営化ストップ」。

それに対する実践を、
シンポジウム形式で
学びました。なお、
⑤には、四十市の
下田中学校の存続を
願う保護者と子ども
たちも(県教組の旅
行団とは別の形で東
京に行き)参加・発
言をしています。

二日目・三日目は、
11の教科別分科会と
7つの課題別分科会
が都内各地で行われ
ました。全国各地の
学校現場などからの
実践報告を受けて、
子どもたち一人ひと
りの可能性を伸ばし
ていくためにはどの

ような視点が必要な
のか、意見交換をし
ながら学び合いまし
た。その実践一つ一
つの視点や、意見交
換で出される考え方
などは、大いに学ぶ
ことがありました。

なお高知県からはレ
ポート8本(3本は
文書のみ)・司会者
2名を出しています。
この23全国教研で
学んだことを生かし
て高知で実践をして
いこう、そして秋の
郡市高教研・引き続
く県教研でまた報告
し合つての学びを深
めよう、可能ならば
次年度の全国教研で
また深い学びをして
いこう、そんな決意
を固め合つた参加者
でした。

国人勸、一時金・月例給共に引上げ勧告 平均で年間8万円程度の引き上げに！

8月7日、人事院は政府
と国会に対して、国家公務
員の給与に対する勧告等
(以下、国人勸)を行いま
した。

その概要です。

①官民格差が3869円
(0.96%)あることか
ら、国家公務員の賃金を再
任用も含めて俸給表の全体
の引上げ改定を行うこと。
大卒初任給で1万1000
円など、若年層に重点は置
かれますが、再任用まで含
めて俸給表全体の引上げが
なされるのは、歓迎すべき
ことです。年齢により差が
ありますが、月4000円
程度と考えると、年間4万
円程度の賃金引き上げ。

②一時金を0.1月引き上
げること。国家公務員の場合、
年間支給月数は4.50月
になります。また、この引
上げ分は、期末手当と勤勉
手当に0.05月分ずつ振
り分けられることになつて
おり、職員間の賃金差別を
助長する勤勉手当でのみの
引上げではなく、期末手当
が引き上げられるのも歓迎
すべきことです。これも年
間4万円程度アップです。

③フレックスタイム制を
活用した「勤務時間を割り
振らない日」の対象職員の
拡大。例えば、水曜日を勤
務時間を割り振らない日と
して、その水曜日分の勤務
時間を残りの4日に増やす
ります。

④給与制度のアップデー
ト。初任給引き上げや扶養
手当の見直し・再任用者へ
の手当の拡大などプラスに
なる面もありますが、最優
秀者へのボーナスの上限の
引き上げ(査定による格差
の拡大)や、給与カーブの
在り方の見直し(Ⅱ転職な
どを促すような中高年齢の
給与引き上げの抑制などを
意味する内容)の引き続き
の検討など問題点も多くあ
ります。

もの(例・10時間勤務を週
4日)。週の合計勤務時間
は変わらないものの、こう
した制度を適用すれば、週
休3日制が可能になる場合
もある。

なお、この国人勸は私た
ちの給与に直接影響するわ
けではありません。この国
人勸も参考資料の一つにし
つつ、高知県の民間給与と
公務員の賃金を比較し、10
月中旬に県人事委員会が勧
告を行います。それを受け
て、高知県が給与条例の改
正を県議会に提案、改正が
実現すれば私たちの給与が
改正されることとなります。

高知県教組では、9月冒
頭に人事委員会に要求書を
提出。それに基づいて、話
し合いを行います。また、
県人事委員会の勧告後は、
県教委に対して給与・待遇
改善等の賃金労働条件改善
の要求と交渉を行います。

これから、高知県教組・
高教組では県教委に対する
署名等を行います。近日中
に署名用紙をお返しします
ので、ぜひご協力下さい。
よろしくお願ひします。

8月から全教共済は新年度に！
総合共済など、前年度分の給付申請の漏れ
はありませんか？(15・25・35年の)結婚記
念日給付や(23年度からはなくなった)22年
度分の災害救助法適用見舞金申請など、ぜひ
ご確認ください。過去3年まで遡れます。

教職員のための自動車保険は
全教自動車保険
教職員と家族を守って32年
WEBでかんたん
見積依頼
右のQRコードから見積り依頼を→
お問合せは代理店ケンキョーまで ☎ 0120-459-813

平成大合併で消えた自治体名⑥

1	2	3		4
5			6	
		7	8	
9			10	
		11		12
13				

【タテのカギ】

1. 今年は9月18日
2. 読めるかな?
3. 連想ゲーム、「鳥賊」
4. ぬくもりのある
6. 犯罪者などの更生を助ける、法務省から委託を受け

る役割。でも、ポランテア。

8. 本当らしく見せかけたインチキ。
11. ○○を白と言いくるめるのはダメ
12. お城の周りの、水を湛えるところ

い○○はない。

13. いろいろな祭りが復活する中で、残念ながら今年も中止になったいの町本川の祭り

6. 約束を○○にするのはダメ。
7. 他の何事にも代えがたい味わい
9. くっつきワード。
10. 記号では下。摂氏ではないよ。
11. 名もなき

【7月号の当選者】

「にほんブログ村」でした。抽選の結果、次の3名の方が当選されました。おめでとうござります。

ムー一族の末裔さん
(香我美中)
藤田裕美さん
(赤野小)

【みなさんの声より】

・「夏休み等の長期休暇中は先生も休み？」と聞かれますが、研修や書類作成、教材作成等々やる事は山積み…。普段はもちろん、手を抜くことも出来ず、時間外が増えています。学校も週休三日制になることを切に願っています。

そして、うちの学校は担任が二人という小規模。校務分掌も二人で分け、毎週のようには会って出掛け、授業も抜け、教科も一学期ギリギリで…。しかも、学級数が少ないため、主任手当もなくて…。自家発電するには、体力も気力も限界があります。

・私が若い頃、高岡郡仁淀村立という学校に通勤していました。今は、吾川郡仁淀川町立。でも同じ学校。懐かしくてうれしいです。

・職場の花壇にブルーベリー。でも、ムクドリ集団が熟した実を次々に丸呑み。甘く熟した実を少しは残して!

・職場の花壇に食べたいの2年生の女の子が「人生初、美味しいと思った」というので、おかしいやら、うれしいやら。

Pちゃんさん
(南中)

も、いろいろな工夫が見られるようになりました。〜(持つてくるのを忘れたという子に)タブレットでの課題提出となると、「じゃあこっちのタブレットでログインして、できている課題を送る作業をしてみて」となり、もしできていない子どもは追い詰められることに。〜また、先生から週ごとに課題を送ることができ、文字だけのやり取りが展開される状況も、人間として少し寂しく感じます。

・夏休みに職員室、大掃除します!

・今年は、小玉スイカを植えてみました。6玉も育ってくれて、子どもたち大喜びでした。スイカ嫌いの2年生の女の子が「人生初、美味しいと思った」というので、おかしいやら、うれしいやら。

メールはこちら


